

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270101761
法人名	医療法人社団 春秋会
事業所名	二本松養生所
所在地	長崎県長崎市戸町2丁目177番28 (電話) 095-811-1919
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成21年1月8日

【情報提供票より】 (平成20年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	2階建ての	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (30,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (1月 8日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.7 歳	最低	82 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	南長崎クリニック、山の手クリニック、よしだ歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市営団地が並ぶ住宅地に位置し、地域との密接な関わりを大切にしている事業所である。事業所が行う夏祭りは、自治会も参加し準備段階から打ち合わせを一緒に行い、地域と共に祭りを行っている。また、管理者、職員が全員で利用者の身体能力の維持に留まらず、トイレ誘導によるおむつ離れや歩行訓練による車椅子からの自立など改善するよう取り組んでいる。家族会、運営推進会議は2ヶ月に一度開催され、出席者も多く意見交換も盛んで事業所の質の向上につながっている。月一回の法人内の勉強会や緊急対応における勉強会など職員も参加し、利用者本位の支援について取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>外部評価結果は、職員の勉強会・運営推進会議・家族会で報告されている。前回の改善項目であった車椅子利用者の入浴については、デイサービスの浴室の利用が行われており改善があった。しかし、改善の取組みが確認できない項目があった。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>自己評価は、管理者が作成後、職員全体で話し合い共有している。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に一度開催している。メンバーは、自治会長・民生委員・保育園事務長・市議会議員・クリニック委員長・家族である。会議内容は外部評価報告、新人職員の紹介、サービス提供や勉強会紹介、前回の改善点、行事報告、避難訓練相談・報告、地域からの連絡事項など有意義な会議となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>日常の面会時や、2ヶ月に一度の家族会后、利用者や家族からの意見や要望・苦情等聞き取りが行われている。聞き取った意見や要望は、職員全員で話しあい共有し、運営へ反映して役立っている。ただし、前回の改善項目でもある重要事項説明書には外部の苦情相談窓口の表記はまだされていない。</p>
	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>事業所は、自治会や老人会に加入しており、自治会主催のウォークラリー等に利用者も職員と共に参加している。事業所は、年間行事計画をたて、事業所主催の敬老会や創立祭・夏祭り・もちつき等への参加を地域に呼びかけ、多くの参加が有る。事業所の行事が地域の行事として組み込まれているものもあり、交流は盛んである。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「のんびりと ほのぼのと おだやかに」を理念に掲げ、利用者が地域の中で継続して安心して暮らせるよう支援している。自治会と共同で行事を行っており、地域との繋がりが数多く確認できる。自治会からの訪問や、利用者の散歩時に近所の方からの声掛けも頻繁に有り、地域に根付いた支援が行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の暮らしの中で、職員は理念に基づき利用者への言葉かけを重視し、そこからわかる思いの把握とそれに沿った支援を行っている。内部研修やミーティング等で理念についての説明と実践できているかの振り返りが行われており、理念の共有に向けて全員で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、自治会や老人会に加入しており、自治会主催のウオークラリー等に利用者も職員と共に参加している。事業所は、年間行事計画をたて、事業所主催の敬老会や創立祭・夏祭り・もちつき等への参加を地域に呼びかけ、多くの参加が有る。事業所の行事が地域の行事として組み込まれているものもあり、交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者が作成後、職員全体で話し合い共有している。自己評価や外部評価の意義は正しく理解している。外部評価結果は、職員の勉強会・運営推進会議・家族会で報告されている。前回の改善項目であった車椅子利用者の入浴については、デイサービスの浴室の利用が行われており改善があった。しかし、改善の取り組みが確認できない項目があった。	○	改善計画シートは自己評価の改善項目だけでなく、外部評価結果の改善事項を記入し、漏れがないよう改善に取り組むことを期待したい。

二本松養生所

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催している。メンバーは、自治会長・民生委員・保育園事務長・市議会議員・クリニック委員長・家族である。会議内容は外部評価報告、新人職員の紹介、サービス提供や勉強会紹介、前回の改善点、行事報告、避難訓練相談・報告、地域からの連絡事項など有意義な会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、市へ出向いてサービスの状況について質問や相談を行ったり、市からは、運営推進会議の参加が有り、運営の実態を共有している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の殆どが、週に1回程面会に訪れており、その都度利用者の状況を報告し、共通理解を深めている。月に1度「ぼかぼか新聞」や預かり金の出納報告に、利用者の日常の様子を追記し複写を送付している。2ヶ月に一度家族会が開催され、意見交換や職員の異動報告等が行われている。会議後は、各部屋で本人、家族、スタッフと一緒に介護計画について話し合い、個々の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時や、2ヶ月に一度の家族会后、利用者や家族からの意見や要望・苦情等聞き取りが行われている。聞き取った意見や要望は、職員全員で話しあい共有し、運営へ反映して役立っている。ただし、前回の改善項目でもある重要事項説明書には外部の苦情相談窓口の表記はまだされていない。	○	重要事項説明書に、外部の苦情相談窓口として市町村の公共の連絡先を表記し、家族への説明を期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内で異動が行われており、運営推進会議や家族会で異動について報告されている。利用者へダメージが少ないように、新人職員は利用者には細やかに声掛けを行い、馴染むように工夫している。		

二本松養生所

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人は、4月に新人向けの研修が行われ、中途採用については、現場でマンツーマンで研修が行われている。スキルアップの為に資格取得は事前研修を行い、取得に向けて事業所ができるバックアップをしている。研修内容の報告は、翌日の朝礼で報告し資料はいつでも見れるようファイリングし保管している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修は、16のグループホームの事業所で組織した会で勉強会が行われており、管理者が参加している。また介護福祉士会・医師会等の研修にも職員が積極的に参加しサービスの質の向上に役立っている。他のグループホームから事業所へ訪問があるなどネットワークづくりが行われている。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に自宅を訪問し、管理者、ケアマネジャーが家族や本人と面談を行っている。本人が入院している場合は、先に家族に面談し入院先の本人や病院の職員と面談を行っている。情報は持ち帰りスタッフと検討をして契約を交わしている。利用開始当初は、職員は家族と相談しながら利用者の傍で見守り、雰囲気に徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活で利用者と会話をしていく中から、季節のこと、戦時中の話、苦労を笑いに変えて上手に生きることなどを学び、互いに支えあう関係を築いている。		

二本松養生所

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者への言葉掛けを常に行い、一人ひとりの思いをくみ取るように思いを寄せ、言葉の選択など意思確認の支援をしている。言葉で表現できない利用者には、スタッフが出来るかぎり傍において、行動や表情から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時から1週間程、利用者の様子を観察し担当者とケアマネージャーが話し合っ本人に合ったケアプラン原案を立てている。その案を基に本人や家族の面会時に説明し話し合い、要望があれば赤ペンで書き込み職員にわかりやすいように工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、3ヶ月で行われている。2ヶ月に一度家族会が開かれ、家族会終了後、本人・家族・担当でケアプランの確認や要望の聞き取りを行っている。出された要望は、ケアマネージャーと担当で共有し計画に反映している。また見直し時には前回の計画を評価し、継続するか否かを判断している。更にかかりつけ医の医師の意見やアドバイスも取り入れ、個々の現状に即した見直しを行っている。入退院で状態レベルに変化があった場合は、随時見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に沿って外出に出かけたり、友人宅を訪れたり、美容室に行く等支援している。また「ふるさと巡り」と称して、利用者・家族・職員と一緒に利用者の住み慣れた地域を巡るなど、それぞれの要望に沿った柔軟な支援を行っている。		

二本松養生所


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時からのかかりつけ医を職員が付き添って受診している。また週に一度看護師の訪問と母体の医療機関からの往診もある。緊急の際にもかかりつけ医の個人の連絡先を把握しており、急変時の適切な対応ができるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針は契約時に家族に説明し同意書を作成している。看取り介護についての同意書はその段階に至った時のためのもので作成し準備している。職員は看取りについての勉強会に参加しており、医療機関との連携体制も整備されており全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法遵守について契約時に家族に説明し同意書を作成し保管している。職員は採用時に個人情報の保護に関する誓約書を作成している。利用者への対応は必ず本人の意思確認を行い、支援するよう配慮している。言葉かけで気になる場合は職員同士で注意しあっている。記録類は鍵のかかる特定の場所に収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でくつろいでいる時に希望を聞いている。散歩や買い物など本人の意思を尊重し支援している。レクリエーションなども無理に誘うのではなく本人の希望を聞いてその人のペースで過ごせるように支援している。		

二本松養生所

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に嚥下体操を行い、できるだけ普通食が食べられるように支援している。朝、夕は配食を利用し、昼は手作りで調理の音や匂いを楽しめるよう工夫している。配膳など利用者もしており、好き嫌いは把握しており食材を変更して対応している。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、話しながら楽しい食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう沸かしており、最低でも週に3回は入浴するよう支援している。湯の温度は職員が手で確認しており、季節には菖蒲湯、柚子湯なども提供している。一人で入浴する場合も浴室にはコールブザーが付いており、職員の応援が得られる。気の合う利用者は一緒に入浴したり、車椅子の利用者はデイサービスの浴室を利用するなど柔軟に支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや料理の配膳などはその日の気分や体調によって行っており、フロアのモップかけは男性の利用者が率先して行っている。毎朝新聞を読む利用者には新聞を提供したり、園芸を楽しんだり、パズル遊びなど一人ひとりに合わせて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の前に公園があるため天気の良い日は散歩に出かけている。また、車椅子の利用者も一緒にデイサービスの送迎バスに乗って女神大橋や新地周辺、水辺の森公園などにドライブに出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠せずチャイムも作動していない。見守りは玄関先に職員がいるように工夫し、外に出たい希望がある時は職員が付き添い、気分が落ち着くまで一緒に歩いて戻っている。		

二本松養生所

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施している。消防署と運営推進会議の委員で近隣住民にも参加を依頼し、2月1日は夜間想定で実施した。業者に依頼して非常灯などの保守点検を行い、緊急時の対応の勉強会を法人内で実施している。災害マニュアルも整備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の力を見ながら、できるだけミキサー食などでなく、普通食が食べられるように支援している。配食はカロリー計算がされており、昼食やおやつも配慮しながら提供している。食事摂取記録以外に飲水チェック表で毎日1500ccを確保するよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的なリビングは日中利用者のほとんどが集うため、思い思いに過ごせるように椅子やソファなどが配置してある。日当たりのいいリビングで日光浴もできるが適度にカーテンで調節している。毎日朝からトイレ、廊下、リビングを清掃しており清潔感がある。テレビは食事中は消して会話を楽しむなど工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は冷蔵庫や鏡、ソファなどの家具が置かれており、利用者が居心地よく自分の部屋として過ごせるよう家族の協力を得ながら工夫している。		

※  は、重点項目。